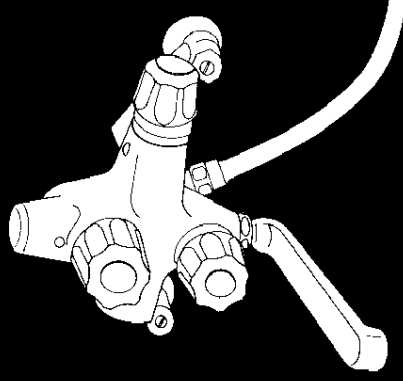


ファミリーシリーズ “自動みずとめ” 住宅用定量止水付サーモスタット シャワーバス金具・混合栓

TOTO

ご愛用のしおり

- このたびは、TOTO住宅用定量止水付サーモスタットシャワーバス金具・混合栓をお求めいただきました。このしとにありがとうございます。このしおりをよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- このしおりは、大切に保存しておいてください。



もくじ

安全上の注意	1～2
特長・各部のなまえ	3
定量吐水のしくみ	4
各ハンドルの役目	5
つかいかた	6～8
使用上の注意	9～10
最大設定量の調節のしかた	11～12
温度調節のしかた	13
凍結予防のしかた	14
手入れのしかた	14
ストレーナの掃除	14
故障したときは	15～16

商品のお問合せはTOTOお客様相談室へ
 **0120-03-1010**
 受付時間9:00～17:30(土・日・祝日を除く)

安全のために必ずお守りください

ご使用前に、この「安全上の注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。

- この説明書では、機器を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味はつぎのようになっています。

⚠ 注意 この表示の欄の内容を無視して誤った取扱いをすると、傷害または、物的損害が発生する可能性がありますを示しています。

- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる場所に必ず保存してください。

⚠ 注意

- (1) シャワーをお使いになる前に、必ず手で適温かどうかを確かめてください。高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。(シャワー付)
- (2) お使いになる前に、カラシ側がシャワー側かを切替ハンドルで確認してから湯をお使いください。
カラシ吐水とシャワー吐水を間違えると、やけどをするおそれがあります。(シャワー付)
- (3) 水栓の左側は給湯側のため高温になっています。水栓の表面に直接肌を触れないようにしてください。
やけどをするおそれがあります。
- (4) 熱湯をお使いのときには、カラシは高温になっています。
直接肌を触れないでください。
やけどをするおそれがあります。(カラシ付)
- (5) 使用後は必ず温度調節ハンドルの目盛を40℃以下に戻しておいてください。
次に使用すると、いきなり高温の湯を浴び、やけどをするおそれがあります。

(6) 高温の湯をお使いの後は、水栓内に高温の湯が残らないようしばらく水を流してください。
次に使用すると、水栓内に滞留した高温の湯が出て、やけどをするおそれがあります。

(7) ハンドルの温度位置を確かめた後、吐水してください。
高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。

(8) 温度調節ハンドルを急に回すと、温度が急上昇することがありますので、温度調節ハンドルはゆっくり回してください。
やけどをするおそれがあります。

(9) シャワー使用後は、切替ハンドルを必ずカラシ側に切替えてください。
切替ハンドルがシャワー側になっているのを気付かずに湯を出すと、やけどをするおそれがあります。(切替付)

(10) 凍結が予想される際は、配管の水抜操作と水栓の水抜操作を同時に行ってください。
凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。(寒冷地用)

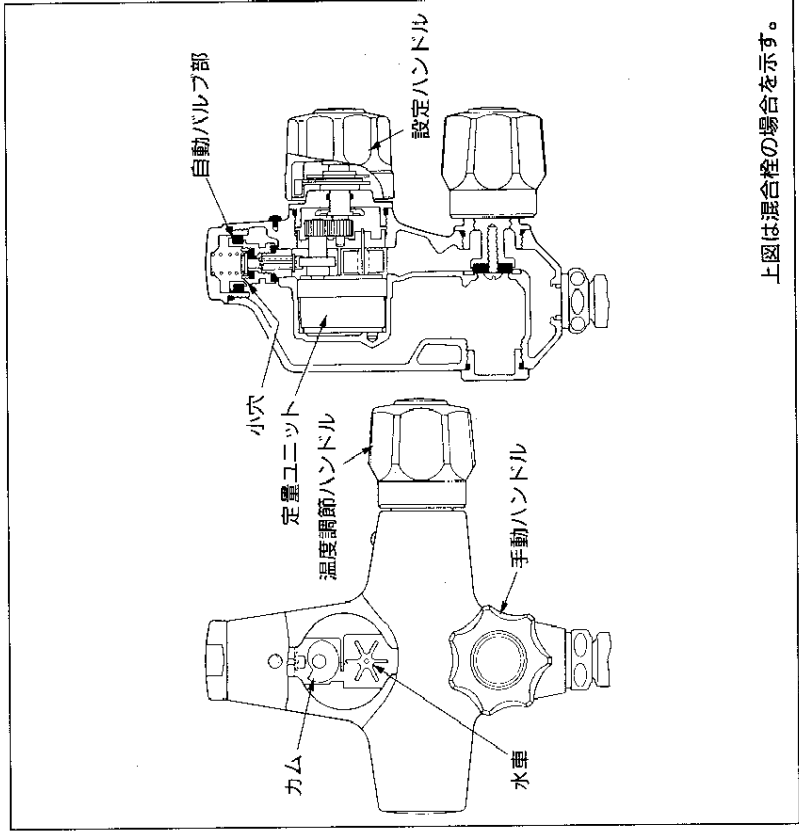
(11) ハンドルを急閉止させると、配管から漏水を起こすおそれがありますので、ゆっくり操作してください。
漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

特長・各部のなまえ

1. 希望湯量を設定すれば浴槽に湯をためる間、いちいち湯量を気にする必要がなく、湯をあふれさせない心配もありませんので節水省エネに役立ちます。
2. サーモスタット付ですので使用中に給水・給湯圧力が変わっても混合水の温度をほぼ一定に自動調整します。
3. 温度調節ハンドルの操作ひとつでお望みの温度に変えられます。
4. 温度調節ハンドルは安全ボタン付ですので誤って熱湯を出すことはありません。
5. 湯量の制御は時間でなく、実際に流れる湯の量で制御する機構のため、水圧の変動で湯量が変わることがほとんどありません。
6. 手動ハンドルを設けていますので、通常のシャワーバス金具・混合栓としても使用できます。
7. 自動バルブは緩閉止機構を採用し、ウォータハンマを防止しています。
8. 浴槽の大きさに合わせて必要とする湯量以上、吐水しないよう最大設定量の調節ができます。
9. 内部機構はカートリッジ式になっていますので、万一故障しても取り替えは簡単です。
10. 寒冷地用の場合は器具内の水抜きができる水抜きコックを設けています。

<p>一般用</p> <p>TM545CR・CFR TM545CMR・CMFR (マッサー・シャワー付)</p> <p>寒冷地用</p> <p>TM545CZ・CFZ TM545CMZ・CMFZ (マッサー・シャワー付)</p> <p>TM545CHZ・CFHZ TM545CHZ・CMFHZ (マッサー・シャワー付)</p>	<p>バルブカバー (シャワーバス金具)</p>	<table border="1"> <tr> <td>付属部品数</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ストレーナ開閉工具</td> <td>1</td> </tr> </table>	付属部品数	1	ストレーナ開閉工具	1
付属部品数	1					
ストレーナ開閉工具	1					
<p>一般用</p> <p>TM545AR</p> <p>寒冷地用</p> <p>TM545AZ</p>	<p>(混合栓)</p>					

定量吐水のしくみ

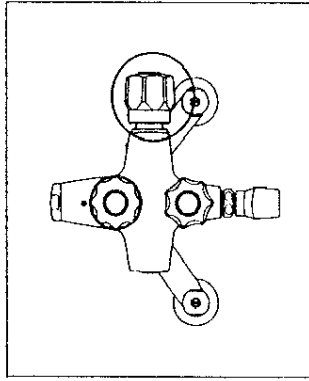


上図は混合栓の場合を示す。

1. 設定ハンドルを時計方向にまわすと、定量ユニットのカムが回転し、バルブを押しあげ湯が出はじめます。
 2. 湯が出はじめると湯の勢いで水車が回転し、その回転がギアで減速されながらカムをゆっくりと回転させます。(このときハンドルがゆっくりと反時計方向に自動回転します)
 3. 所定の位置まで回転するとバルブがカムから離れ、ばねと水圧によりバルブが閉まり、湯が止まります。
- 手動ハンドルは設定ハンドルとは関係なく操作できます。

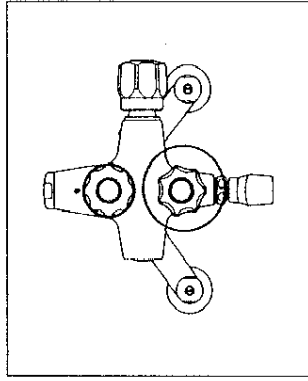
各ハンドルの役割

1. 温度調節ハンドル



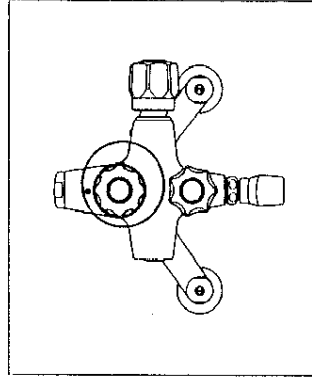
水と熱湯を混合させて温度の調節をします。サーモスタット付ですので温度はほぼ一定に自動調整されます。なお、このハンドルでは、湯水を止めることはできません。

2. 手動ハンドル



手で吐水させるとき使用します。
 ◆シャワーバス金具の場合
 シャワー、カランの切替えと止水をかねそなえています。
 ◆混合栓の場合
 通常のハンドルと同様、水量の調節と止水をします。

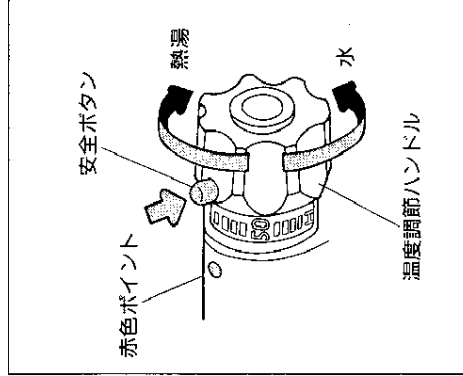
3. 設定ハンドル



浴槽に湯をためるとき、自動止水させたい場合に使用します。希望湯量に目盛を設定すれば、吐水した後自動的に止水します。(シャワーの開閉はできません。)

つかいかた

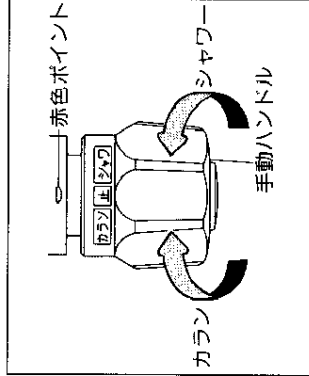
温度調節



温度調節ハンドルを回してお望みの目盛を赤色ポイントに合わせてください。数字は湯温を示す目安としてください。

温度調節ハンドルには誤って熱湯を出さないように安全ボタンが付いています。ハンドルは目盛"40"付近でロックされますのでこれより高温で吐水させたいときは、安全ボタンを押して回してください。なお、安全ボタンを押して使用したときは、ハンドルを必ず目盛"40"以下に戻しておいてください。

〈手動ハンドル使用の場合〉 ◆シャワーバス金具の場合



カララン吐水

ハンドルのカラランと赤色ポイントを合わせてください。一杯に回すと流量が最大になります。

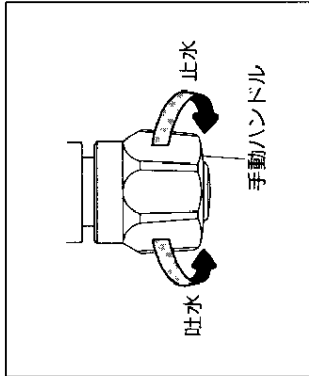
シャワー吐水

ハンドルのシャワーと赤色ポイントを合わせてください。一杯に回すと流量が最大になります。

止水

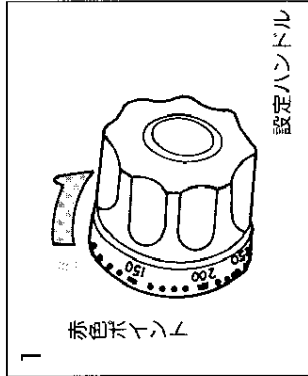
ハンドルの"止"と赤色ポイントを合わせてください。

◆混合栓の場合



手動ハンドルを左へ回すとカラんから吐水します。
左へ一杯に回すと流量が最大になります。
右へ一杯に回すと止水します。

〈設定ハンドル使用の場合……浴槽へ湯をためるとき〉

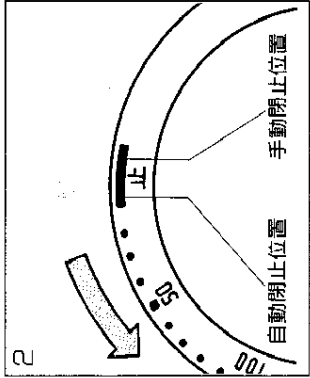
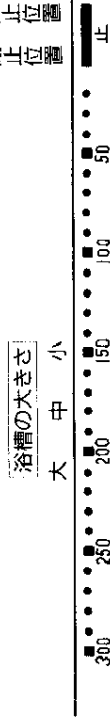


手動ハンドルが“止”になっていることを確認します。設定ハンドルを矢印方向に回すとカラんから湯が出はじめます。希望の目盛を本体の赤色ポイントに合わせてください。120以下の目盛に設定するときは、一度120以上回してから戻して設定してください。

目盛の目安

ハンドルの数字がおよその湯量です。(例:150=150ℓ)

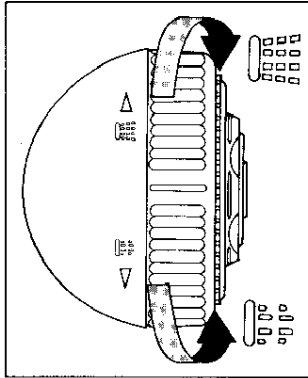
下図に設定位置の目安を示しますが、一度湯をためてみてお取付けの浴槽に合った湯量を確認してください。自動閉止位置と手動閉止位置には若干のズレがあります。



設定湯量を吐水したのち、図に示す位置で、自動的に止水します。途中で湯を止めたいときは、設定ハンドルを止まるまで矢印方向へ回してください。

注:水をためて風呂を沸かす場合は、必ず浴槽内の水量を確かめてください。

シャワー切替え……(TM545CMR・CMFR・CMZ・CMFZ・CMHZ・CMFHZの場合のみ)



(a)マッサージ吐水
切替リングを左へ回すと連続吐水します。
(b)スプレー吐水
切替リングを右へ回すと連続吐水します。

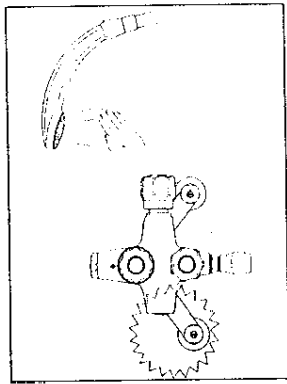
給湯機がガス瞬間湯沸器の場合は次の点にご注意ください。

1. 手動ハンドルは全開でご使用ください。
2. 湯沸器の温度調節つまみを(高)の位置にし、能力切替つまみは季節に応じた位置にセットしてください。
3. 適切なシャワー量で適温が得られないときは、湯沸器の能力切替つまみで調節してください。
4. 能力が小さい湯沸器では、冬場の水温の低いときなど、適温の流量が少ないため、自動吐水が正常に作動しない場合がありますので注意してください。

使用上の注意

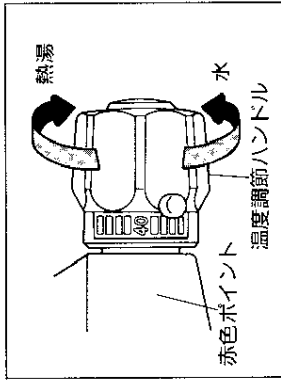
熱湯を使用しますので、火傷などの事故がないよう、必ず次の注意事項を守ってください。

1. 火傷に注意すること



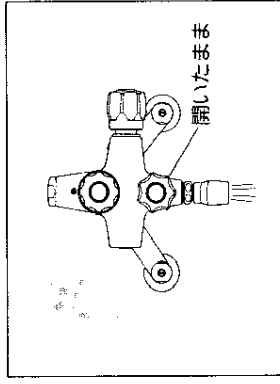
器具の左側は給湯側のため、高温になっていきます。金具の表面に直接肌をふれないようにご注意ください。また、高温で吐水させた後は、しばらく水を出し、高温の残水を流しておいてください。シャワーを使用する場合は、いったん手で湯温を確認してください。

2. 温度調節ハンドルはゆっくり回す、使用後は“40”以下に



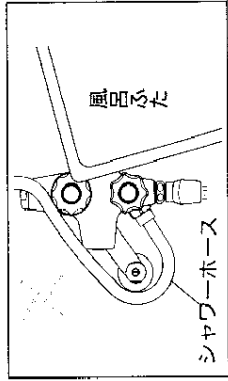
温度調節ハンドルは、ゆっくり回してください。急に回しますと温度があがり過ぎる場合があります。熱湯を使用した後は、必ず温度調節ハンドルを“40”以下に戻してください。（これは次に使うとき、いきなり熱湯を浴びないためです。）

3. 設定ハンドル使用後は手動ハンドルは閉めておくこと



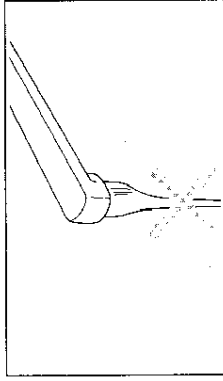
自動吐水時手動ハンドルを開いておくと自動止水しません。また途中で手動ハンドルを開けても設定湯量よりも多くなります。

4. 自動吐水時は設定ハンドルの自動回転を妨げないこと



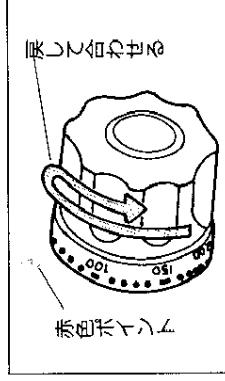
自動吐水時は設定ハンドルがゆっくりと自動回転しますので、その動きを妨げないようにしてください。動きを妨げると湯量が多くなりすぎたり自動止水しなくなります。（風呂ふた、シャワーホースなどが設定ハンドルにあたらさないようにしてください。）

5. 流量を極端に絞らないこと



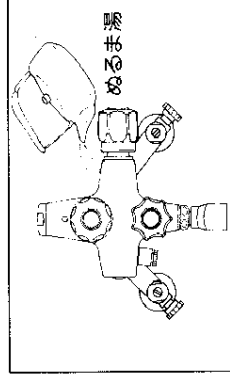
流量は止水栓で調節できますが、余り極端に絞ると、精度が悪くなり自動止水しないことがありますので、目盛150（約150ℓ）のとき、少くとも30分以内で止水するぐらいの流量でご使用ください。

6. 120以下に設定するときは、120以上に回してから設定すること



湯量を120以下に設定するときは、必ず設定ハンドルを120以上に回してから希望する目盛に戻してください。（そのまま120以下の目盛に合わせると、自動止水しません。）

7. 凍結すると少しの間吐水しません（寒冷地用の場合）



凍結した場合、水抜きを行っていてもストレーナやギアの表面に付着した水滴が凍ることがあります。通水後吐水しない場合や設定ハンドルがたたくて回らない場合は、ぬるま湯であたためてください。

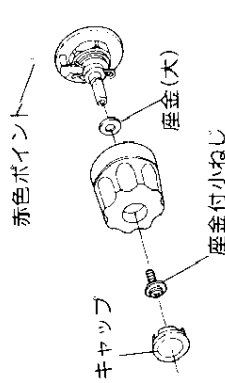
最大設定量の調節のしかた

この器具は目盛300(約300ℓ)まで設定できますが、浴槽の適量以上、設定ハンドルが回らないように最大設定量を調節することができます。

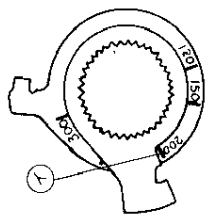
次の要領で調節をしてください。

- 調節する前に
 - a) 浴槽の適量を調べる。設定ハンドルの目盛はおよその水量(ℓ)を示しますので、浴槽に水をためてみると適量がわかります。
 - b) 水側・湯側の止水栓を閉める。
 - c) 設定ハンドルを目盛100に合わせる。

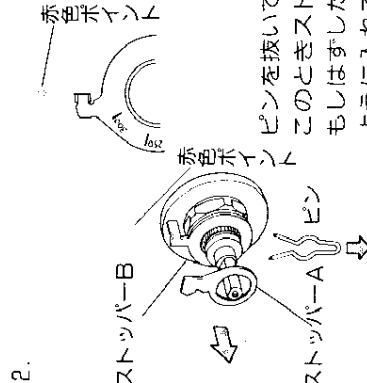
1. キャップ・小ねじ他をはずして設定ハンドルを取りはずしてください。



3. ストップパーBの数字はおよその湯量(ℓ)を示します。数字は50単位になっていますが10単位の設定が可能です。あらかじめ調べた適量の数字にストップパーAのイ面を合わせてください。下図は約200ℓ



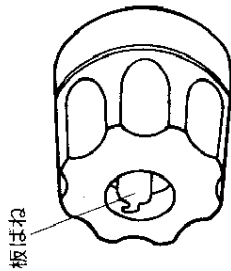
に合わせたときを示します。ストップパーAを120以下にセットしなさい。自動止水しなくなりま



ピンを抜いて、ストップパーAをはずしてください。このときストップパーBははずさないでください。もしはずした場合は、赤色ポイントに対して図のように入れてください。

4. ストップパーのセットが終了したらピンを入れ、設定ハンドルの取りはずしと逆の手順で元の位置におさめてください。このとき、圧金(大)を忘れずと設定ハンドルが回らなくなること

また、設定ハンドルをおさめるとき板ばねが出てくることあります。そのときはドライバーなどで元どおりに押し込んでください。



5. このページ下段に添付している適量ラベルを設定量の目盛の上



適量ラベルを貼っておくと使用になる方が容易に設定できます。貼るときは、ハンドルの汚れや水分をよくふきとってください。

最大設定量の調節をしない場合でも、浴槽に水をためるとき合わせる目盛の上に適量ラベルを貼っておくと便利です。



適量ラベル

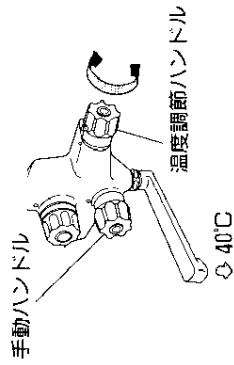
温度調節のしかた

目盛通りのお湯が出なくなったり場合は、次の要領で温度調節をしてください。

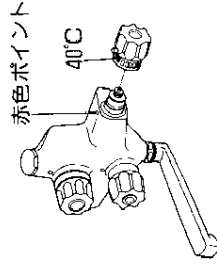
● 調節する前に

- (a) ストレーナの組みまわりはどうか確かめる。
- (b) 止水栓が全開しているか確かめる。
- (c) 十分な温度(使用する温度より10°C以上)のお湯がきているか確かめる。

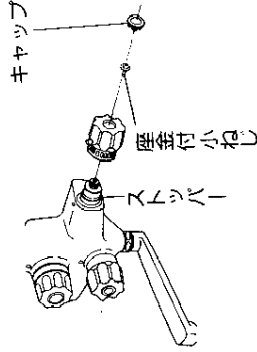
1. 手動ハンドルを開き、温度調節ハンドルの目盛に關係なく40°Cのお湯が出る位置まで温度調節ハンドルを回す。



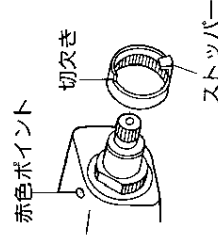
3. 温度調節ハンドルの“40”の文字と赤色ポイントを合わせてハンドルをはめ、小ねじで固定しキャップをはめる。



2. 温度調節ハンドルが回らないよう注意してキャップ、小ねじをはずしてハンドルを抜きとる。



(注) 温度調節ハンドルを抜きとるとき、ストッパーがはずれたら赤色ポイントに切欠きを合わせてはめてください。

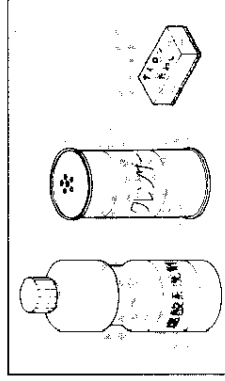


凍結予防のしかた

凍結のおそれがある場合は、同封の「水抜方法」のラベルにしたがって器具内の水抜きをしてください。なお、ラベルは器具の近くに張りつけてください。

手入れのしかた

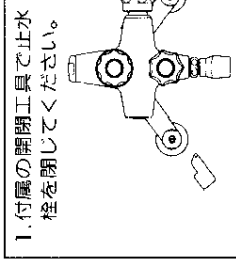
いつまでも美しさを保つために柔らかい布でみがき、めっさされたところはときどきミシン油やカーワックスなどをまじえた布でみがいでください。ただし樹脂部(ハンドル)に付着すると光沢を失いますので、付着しないよう十分注意してください。



クレンザー・みがき粉などや粗い粒子を含む洗剤およびナイロンたわしなどはめっさ面を傷つけますので使用しないでください。また酸性洗剤はめっさを傷めますので使用しないでください。まちがって使用したときはすぐに水洗いしてください。

ストレーナの掃除

ストレーナがつまると吐水量が少なくなったり、水又は熱湯が出なくなると十分な機能が發揮されなくなりますのでときどき次の要領でストレーナを掃除してください。



故障したときは

故障の修理はお取付工事店にご依頼ください。

なおご不明な点がございましたらお客様相談室にご相談ください。

●修理を依頼される前に簡単な故障はご家庭でも直せますので修理を依頼される前に次の点検をしてください。

●故障内容

流量が少ない

高温又は低温しか出ない
目盛とお湯の温度がちがう

湯水が止まらない

湯量が大きく狂う

止水栓は開かれているか	止水栓は開かれているか
ストレーナーのごみづまりはないか	ストレーナーのごみづまりはないか
混合栓に湯がきているか	混合栓に湯がきているか
温度調節はよいか	温度調節はよいか
シート部にごみをかんでいないか	シート部にごみをかんでいないか
バルブの小穴がつまっていないか	バルブの小穴がつまっていないか
ハンドル目盛が「止」の位置にあるか	ハンドル目盛が「止」の位置にあるか
手動ハンドルを開いていないか	手動ハンドルを開いていないか
設定ハンドルの動きを妨げないか	設定ハンドルの動きを妨げないか
湯量の設定をまちがわなかったか	湯量の設定をまちがわなかったか

→自動バルブの掃除のしかた

1 水側・湯側の止水栓を閉め、湯水を止める。	2 設定ハンドルを止まるまで矢印方向へ回す。	3 バルブカバを開ける。(3ページ参照)	4 バルブ部を取り出す。
5 シートパッキンにごみかみがないか調べる。	6 小穴がつまっていたら細い針金で掃除する。(荷札の針金など)	7 バルブ部を元どおりにおさめ、バルブカバを閉める。	8 水側・湯側の止水栓を開く。